（様式７）　　令和２年度　　大学院派遣研修　研究報告書

派遣者番号	３１Ｊ０１	氏　名	菊池　友也
研究主題 －副主題－	主体的・対話的で深い学びを支える学級経営		
派遣先	慶應義塾大学大学院	担当教官	鹿毛　雅治・佐久間　亜紀
所属	新宿区立四谷小学校	所属長	石井　正広

キーワード：主体的・対話的で深い学び　学級経営　学級通信　情報発信

１　研究の背景（目的）・主題設定の理由等

本研究は、主体的・対話的で深い学びを支える学級経営に有効な取組について検討する。本報告では、都内公立小学校に子供を通学させている保護者を対象とした質問紙調査分析を通して、学級通信が保護者と学校の関係を改善する効果をもつことを明らかにする。

学級経営の充実は、主体的・対話的で深い学びを実現するために、その重要性がますます高まっている。小学校学習指導要領解説特別活動編（平成 29 年７月告示）には、第１章総則に、学級経営の充実は、「各教科等で『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業改善を行う上で欠かせないもの」とある。その上で、学級経営の充実のためには「家庭や地域社会との連携を密にすることが大切」であり、「特に保護者との間で、学級通信や保護者会、家庭訪問などによる相互の交流を通して、児童理解、児童に対する指導の在り方について共通理解をしておく必要がある」と、取組例とともに示されている。

学校が保護者との連携を密にすることをねらい取り組んでいる情報発信は、大きく変化しつつある。2020 年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、感染症拡大防止を目的とした非接触型コミュニケーションの推奨や GIGA スクール構想などＩＣＴ化が急速に進み、学校から保護者への情報発信の在り方を検討することはますます重要になった。

以上のことから、学校から保護者への情報発信に焦点を当て、学級経営の充実に取り組むことは主体的・対話的で深い学びの実現において重要であると言える。

そこで、研究主題を「主体的・対話的で深い学びを支える学級経営」とし、これからの学級経営の在り方に対して示唆を得ることを目指した。

２　研究の内容・研究の方法

質問紙調査の分析について述べる。

この質問紙調査は、2020 年２月上旬から下旬に、都内公立小学校 15 校に子供を通学させる保護者 3,658 家庭を対象に、各小学校の学級担任を通じて、質問紙を保護者に配付した。質問紙の回収に当たっては、回答者が特定できないようにして各小学校の学級担任が回収した。質問紙の有効回収数は 2,730 家庭（74.6%）である。

質問内容は、学校で行われる行事や活動への参加頻度、信頼する先生の特徴、学級通信の受け取り経験、受け取った学級通信の内容、子供に対する教育意識等である。

３　研究の結果

(1) 調査対象者の実態

調査対象者は子供への教育意識が高く、学校公開や学校行事に参加している者が大半を占めていた。一方、ＰＴＡ活動や学校ボランティア活動に対しては負担を感じ、活動への参加も少ない現状が明らかとなり、学校への関わりが低い保護者が多いという実態が浮かび上がってきた。

また、調査対象者は、全体の３分の２以上に当たる 71.9%が、学級担任が発行する学級通信を受け取った経験があり、その学級通信の内容は、学校での子供の姿や活動の内容に比べ、行事予定や持ち物のお知らせといった事務的な連絡が多いことが明らかとなった。

(2) 学級通信の影響の検討

次に、学級通信という具体的な取組に着目し、保護者の学校への意識にどう影響しているか、検討を行った。学校への意識は、保護者が学校で行われる教育活動への参画状況から捉えることとし、学校関与度と

いう変数を作成した。

この学校関与度を被説明変数として、分散分析及び重回帰分析を行い、以下の３点が明らかとなった。

ア　学級通信は、保護者の特徴によらず、保護者の学校に対する意識を向上させる。

学級通信を受け取った経験のある保護者は、教育熱心さ（子供に対する大学進学希望、塾や家庭教師の利用状況等から作成した変数）の高さに関わらず、学級通信を受け取った経験のない保護者と比べて、学校関与度が高い値を示すことが明らかとなった（**図１**）。

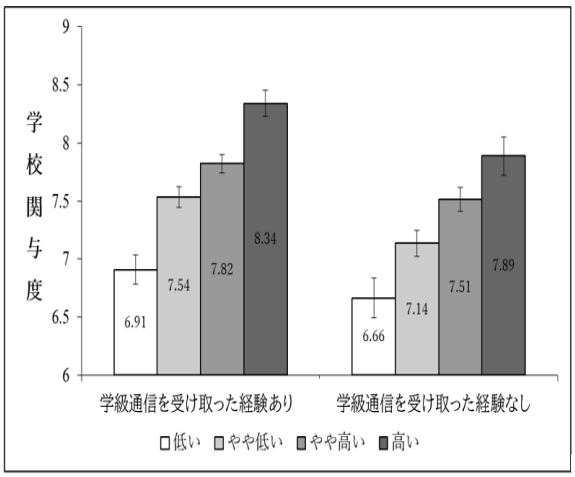

図１　学校関与度

イ　学級通信が保護者の学校関与度に及ぼす影響は、学級の児童の様子等の情報（以下、「子供情報」）が多い場合に効果が大きい。

学級通信の効果は、時間割や授業に必要な持ち物など保護者への事務的な連絡よりも、学級の児童の様子などの情報（授業中の児童の発言や児童が書いた作文や詩、図工で制作した作品の紹介等）といった「子供情報」が多く載っている場合、さらに大きいことが明らかとなった。

ウ　保護者が学級通信を受け取った経験、特に「子供情報」を多く含む学級通信を受け取った経験により、保護者が学級担任への信頼の度合いを増すことで、学校関与度が高まる。

学級通信がなぜ保護者と学校の関係を改善するのかについては、「子供情報」を多く含む学級通信を発行する取組により、保護者が学級担任への信頼の度合いを増すことで、学校関与度が高まるというメカニズムが、明らかになった。

４　研究の考察

本研究によって、学級通信は、保護者の学校に対する意識を向上させていることが明らかになった。このことから学級通信は、保護者の教育熱心さに関わらず、どの保護者に対しても、学級担任や学校への信頼を増すことによって、子供に対する関わりや学校に対する行動を改善させる効果をもっている可能性がある。

従来の研究では、学校が講じる取組の多くは、教育熱心さの高い一部の保護者に向けられたものであると指摘されてきたが、本研究で、学級通信は、保護者の教育熱心さによらず、学校に対する意識に良い影響を及ぼすことが明らかとなった。

５　今後の展望

本報告では学級通信に焦点を当て検証したが、学校便りや学校ホームページなど、学校が実施している他の情報発信においても本研究で確認されたような効果が見られるのか、今後のＩＣＴ化の進展も踏まえ、保護者と学校の関係を改善する学級経営の在り方を一層探究していきたい。